

# 第1回札幌市行政評価委員会

## 会 議 録

日 時：平成30年5月21日（月）午後3時45分開会  
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 第1・2号会議室



## 1. 開 会

○行政改革担当課長 ただいまより、平成30年度第1回札幌市行政評価委員会を開催いたします。

本日は、お忙しいところをお集まりいただきまして、ありがとうございます。

今回は、平成30年度の1回目の行政評価委員会ということで、委員長、副委員長が選任されるまでの間、事務局で司会を務めさせていただきます。

私は、行政改革担当課長の川端と申します。どうぞよろしく願いいたします。

## 2. 改革推進室長挨拶

○行政改革担当課長 それでは、開会に当たりまして、本来は総務局長からご挨拶申し上げるところですけれども、あいにく別の公務で出席することができませんので、改革推進室長の熊谷からご挨拶申し上げます

○改革推進室長 皆さん、こんにちは。

開催に当たりまして、一言、ご挨拶申し上げます。

今日は、本当にお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今年度につきましては、前年度から引き続き4名の委員の皆様、それから、新しく篠河委員に加わっていただくことになりました。どうかよろしく願いを申し上げます。

申し遅れましたけれども、私、熊谷も、この春の人事異動で参りました。前の職場は札幌国際芸術祭の事務局で、仕事の中身や進め方、テンポ感が大きく違うなどギャップを感じている日々でございます。

しかしながら、芸術祭の現場では、多様な人材、多様な才能と出会って、一つの事をやっていくという仕事をしてまいりまして、市役所内部においても、様々な行政ニーズに応える様々な仕事があって、また、それぞれの仕事に様々なステークホルダーの方がいらっしゃいます。そういった現場の中でも、微力ではございますけれども、力を発揮できることもあるのではないかとということで頑張ったいと思っております。

本市では、先日、不祥事の発表がありまして、私としても大変申し訳なく思っております。こうしたことをなくしていくためにも、職員が意欲を持って働いていけるような職場づくり、環境づくりをやっていくのが私どもの仕事だと思っております。そうした観点に立って、日々の業務を市民目線で見直していくこともとても大事なことではないかと感じているところでございます。

そして、ぜひ皆様方には、本当に様々な角度から多様な意見を頂戴したいと思っております。私どもが気がつかないことが本当にたくさんあるかと思ひ

ますので、ぜひ活発なご議論をお願い申し上げまして、今年度の開催における私からのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくようお願い申し上げます。

### 3. 委員の紹介

○行政改革担当課長 それでは、資料1の行政評価委員会委員名簿をご覧くださいと思います。

皆様のお名前と所属を記載させていただいております。

石川委員が退任されまして、後任に篠河委員に着任いただいております。

今年1年間、委員の皆様には、大変なご負担をおかけすることと思っておりますけれども、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、本日は第1回目ですので、例年のおおりに、今後の抱負などを皆様から一言いただければと思います。

○上岡委員 前年度に引き続き、委員を務めさせていただくことになりました上岡と申します。2期目1年目になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

毎年、非常に大きな規模の中で、札幌市がいろいろな課題に取り組んでいらっしゃることは伝わってきていて、市民としてもこの行政評価委員をやって非常によかったなと思うところがあります。

一方で、もっと工夫したら皆さんのいろいろな取組を私も含めた市民みんなに伝わるのではないかと毎年感じてきていることです。

今年も、そういった視点も考えながら行政評価委員を一生懸命務めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○吉田委員 株式会社桐光クリエイティブの吉田でございます。

こうして見ると、私が一番古くなったのだなと思って、びっくりしています。

プロモーションとプランニングの仕事をしているのと、小さな会社の経営者ということで、中小企業の経営者として札幌市のために何ができるのか、いろいろと勉強させていただいておりますし、いつも考えております。それから、大好きな札幌市の魅力がどうやったらもっと伝わっていくのだろうということを私は自分の軸として考えているところでございます。

今年も、何か自分としてもいい学びと意見を言えるように頑張ろうと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○石井委員 北大の公共政策大学院の石井でございます。

私は、2番目の年長者になりまして、4年目に入らせていただきました。

行政評価は、走りのときからで、勉強の対象としてどうあるべきかということが出発点なのですけれども、やってみると外部の目が必要と言いながら、外部の目を本当にどこまで生かせるのか、毎年、悩ましい部分があるかなと思

っています。

そうはいいながら、札幌市の評価や我々の意識が少しずつ変わってきたところもあるかもしれませんが、社会に発信する部分が少しずつ出てきたような気もします。そういうところは、もう少し工夫して一緒にやればいかなと思っております。

今年はいく何をテーマにするのか、今日と次回の議論で決まっていくと思います。事務局にはいろいろとお手数をおかけすると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○蟹江委員 北海道大学大学院経済学研究院の蟹江と申します。

これで3年目になります。こういう機会をいただいたことによりまして、まちを歩いていていろいろと気になることや、今まで余り耳に入ってこなかった行政に関するニュースが何となく耳にとまるようになってきて、やっと慣れてきたかなという感じです。

3年目になりましたので、少しでも議論の輪の中に入れてもらえるように、まちを歩くときにも目を凝らしたり、耳を澄ましたりして、札幌市がよりよくなるように何かお役に立てればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○篠河委員 公認会計士の篠河でございます。

今年から新たに委員の中に入れていただきました。

私は、去年6月まで大手の監査法人に勤めていまして、そこを退職して今は個人で事務所を構えているところでございます。

出身は帯広市で、高校まで帯広におりまして、大学から東京に行ってそのまま東京の監査法人事務所に勤めたのですが、東京で暮らしてみても、やはり、ここには長居できないなということで、希望して昭和57年に札幌事務所に転勤させてもらって、それからずっと札幌におります。

今回はテーマを選ぶということで、いただいた資料をいろいろと拝見しました。どれも重要な施策であり、また、文字だけ見てもどういう中身なのかがよくわからないところもありまして、とんちんかんな発言をするかもしれませんが、長い目で見ていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

## ◎事務局の紹介

○行政改革担当課長 ありがとうございます。

続きまして、事務局からご紹介させていただきたいと思っております。

○改革推進室長 改めまして、改革推進室長の熊谷でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○行政改革担当課長 行政改革担当課長の川端でございます。よろしくお願いいたします。

○推進課長 推進課長の満保でございます。よろしくお願いいたします。

○推進担当係長 推進担当係長の林と申します。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 今年度、行政評価を担当させていただきます須藤と申します。よろしくお願いいたします。

#### 4. 委員長・副委員長の選出

○行政改革担当課長 それでは、次に、委員長・副委員長の選出に入りたいと思います。

参考資料2に評価委員会規則がございますけれども、その第2条の委員長及び副委員長の規定のところ、「評価委員会に委員長及び副委員長を各1人置き、委員の互選により定める。」となっておりますが、これまでと同じように、事務局から案をお示しするというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○行政改革担当課長 ありがとうございます。

それでは、事務局の提案といたしましては、昨年度に引き続き、委員長は石井委員に、副委員長は蟹江委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり) (拍手)

○行政改革担当課長 ご異論がないということで、石井委員に委員長を、蟹江委員に副委員長をお願いすることといたします。

それでは、議事に入りますので、以降は石井委員長に進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

#### 5. 議 事

○石井委員長 今年度もおつき合いいただければと思います。

ここからは、私が議事を進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、委員会規則に基づきまして、委員長、副委員長ともに事故があるときまたは欠けたときのために、あらかじめ職務代理者を指名する必要があります。

これに関しまして、吉田委員を指名させていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元にあります次第に四つほど議事がございます。

最初に、平成30年度の行政評価について、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○推進担当係長 それでは、私から説明させていただきます。

右肩に資料2と書いてある資料がございますので、そちらをおめくりいただきたいと思います。

平成30年度外部評価の実施案ということで、まず、(1)評価の位置づけと目的になりますが、これは札幌市の自治基本条例、行政評価実施要綱というものがございまして、こちらに基づく外部評価と位置づけられております。

下に抜粋を書いておりますが、自治基本条例の第19条に、行政評価を行うに当たっては、「市民の視点に立った外部評価を取り入れるものとする。」と定められておりまして、ここを根拠に開催させていただいているところです。

それから、(2)評価対象事業といたしましては、今年度は平成29年度に実施した予算小事業とその上位目的である施策を対象とするというふうになっております。

(3)評価視点は、私どもから説明するまでもないかもしれませんが、必要性、有効性、効率性といった観点で見ていただきたいと考えております。たくさんある事業のうち、今、必要性が薄れていないか、薄れていないとしても有効に機能しているか、また、有効だとしても本当に一番効率的な手法で行われているかという観点で今後チェックいただければと考えております。

その他は、担い手や事業水準も含めまして評価をしていただければと考えております。

それから、(4)評価の方法です。これは、今後こちらからご提示する施策や事業に関する資料を用いながら、勉強会や事業の所管部局へのヒアリングを行いまして、先ほどの視点に基づいて評価を行っていただきたいと考えております。

さらに、施策及び事業のうち、市民生活との密着性が高く、行政評価委員会として特に市民意見を聞く必要性が高いと判断したのものに関しましては、例年、この委員会と連携した形で市民ワークショップを開催させていただいて、市民の皆様の意見をいただいているところでございます。

年間を通じてこれらを議論していただきまして、最終的にはこの委員会としての報告書という形にまとめまして例年1月に市長へ手交していただいております。

ここまでの評価になります。

それから、(5)といたしまして、指摘事項のフォローアップという側面でもチェックをいただいております。今年度につきましては、平成28年度に行政評価委員会において指摘いただいた事業への各所管部局の対応状況を第2回

委員会で報告させていただいて、指摘に対してしっかり対策がとれたかどうかという観点でチェックいただければと考えております。

(6) その他の事項は、例年の委員会にはない、今年度の特徴的な取組になっております。

一つ目は、株式会社札幌リゾート株式会社に関して、出資団体としてのあり方の検討結果について点検をいただきたいものです。これは平成28年度の行政評価委員会において指摘を受けた案件になっておりまして、南区にある札幌国際スキー場を運営している市の出資団体への出資が今後も必要なのか、必要であればなぜというところを昨年度所管部局が一定の整理をしておりますので、その結果、判断について、今年度の委員会で所管部局から報告させていただいて点検をいただきたいというものになっております。

それから、2点目といたしましては、公共施設マネジメントの取組、評価方法等について、御意見をいただきたいというものであります。

こちらは、今日、所管の財政局にご出席をいただいておりますので、簡単にご説明をお願いいたします。

○公共施設マネジメント担当課長 4月から財政局財政部公共施設マネジメント担当課長として着任している西村と申します。よろしく願いいたします。

昨年10月に財政部の浅村課長がこちらの行政評価委員会にお邪魔させていただいて、教育施設や住宅施設を含む施設全体の持続可能性ということでお話しさせていただいたところだったのですが、その後の4月に新たに財政部内に公共施設マネジメント担当課というものが設立されたところでございます。

我々は、今、最初の取組といたしまして、インフラや企業会計なども含めた全公共施設の状況調査を始めたところでございます。また、始めるに当たって、全庁の部長職の方に集まらせていただいて、これからの公共施設マネジメントの取組の趣旨を説明したところでございます。

今後、こういった資料が取りまとまっていきますので、資料2でいきますと恐らく第3回の10月上旬になろうかと思うのですが、行政評価委員会で報告させていただきたいと考えております。

札幌市はこれから経験したことがない人口減少という局面を迎える中で、公共施設の最適な配置を実現して施設効用を最大限発揮していかなければいけないのですが、委員の皆様からは、それに向けたご意見を頂戴できればと考えているところでございます。

報告の際に、3種類ぐらいの資料を準備しようかと考えております。一つは、中長期の公共施設の推計、市債残高や有形固定資産減価償却率などの各指標の他政令市比較、三つ目としてまちづくりセンター単位か小学校区単位ぐらいで一体どういう公共施設が配置されているか、利用率がどういうふうになってい



るかといったものを10月までに準備させていただいて、報告の上、ぜひご意見を頂戴できればと考えているところでございます。

よろしく願いいたします。

○推進担当係長 どうもありがとうございます。

それでは、資料を1枚めくっていただいて、資料2の裏面を説明いたします。

2番目のワークショップの手法を用いた市民参加の取組ということで、今後、この委員会において、市民議論を求めるテーマを設定いただいて、無作為抽出の市民、例年3,000人程度に参加依頼を送付しておりまして、その中から参加希望のあった市民の方を対象にワークショップを行わせていただいております。具体的にはテーマが決まってからの動き出しにしろうかと思っております。

それから、最後に、3番目の実施スケジュール（案）ということで、これは左側に昨年度の実績、右側に今年度の予定を示しております。

今年を取り扱うテーマも多いので、少し早目の本日、第1回を開催させていただいております。

6月22日の第2回委員会で、今年取り扱う事業を具体的に決定していただいて、平成28年度の指摘のフォローアップを行っていただくというふうに考えております。

以降は、予定になりますが、7月に事業のヒアリング、それから、先ほど申し上げました札幌リゾート開発公社関係の点検、夏の市民ワークショップを経まして、10月の第3回委員会では仮指摘事項の協議と、今、お話がございました公共施設マネジメントの取組への報告を予定しております。

それから、第4回を11月、第5回を12月ということで、1月の手交式に向けて進めさせていただければと考えております。

以上、駆け足でしたが、資料2の説明を終わらせていただきます。

○石井委員長 今の説明に対しまして、ご質問、ご意見等があればお願いしたいと思っております。

（「なし」と発言する者あり）

○石井委員長 その他事項のうちの札幌リゾート開発公社は出資団体の評価の延長の話ということで、公共施設マネジメントは昨年度の評価の延長の話ということで、この委員会で取り上げることについては、相応の意味があるのではないかと考えております。ボリューム的に少し重くなりますが、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

特にご質問等がなければ、この実施案で進めさせていただくことをご了解いただいたということで、次のテーマに行きたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○石井委員長 次の議事は、評価対象候補（施策及び事業）の選定についてになります。これにつきましても、事務局からご説明をお願いしたいと思います。

○推進担当係長 それでは、資料3の説明をさせていただきます。

まず、対象選定の視点といたしまして三つございまして、特定の分野に偏ることなく、多様な分野から政策的なバランスを考慮して施策と事業を選定していただければと考えております。その際、所管局の負担等もございまして、近年、特に直近3カ年、この委員会で取り扱っていない施策・事業を優先的に着目していただければと思います。それから、行政評価委員会における市民参加、ワークショップの取組になじみやすい事業かどうかもご配慮いただいて選定していただければと考えております。

選定の流れといたしましては、2番目に記載がありますが、まず、今回の委員会で大きな施策を選んでいただきまして、次回6月22日の委員会で、その施策にぶら下がっている具体的な事業を選んでいただければと思います。その間、私どもで資料もご用意いたしまして、やりとりさせていただきたいと考えております。

飛びまして、4番目に、過去3カ年の施策と事業の数を参考に掲載しております。平成28年度は出資団体の取組等があった関係で、事業数としては少なくなっておりますが、今年もいろいろと例年にないテーマがございまして、その辺も視野に入れていただいて事業を選んでいただければと考えております。

1枚おめくりいただきまして、資料4-1に、私どもの直近5カ年の事業計画であるアクションプラン2015の施策体系を整理させていただいております。

37施策ありまして、その下にいろいろと事業がぶら下がっているのですが、着色してあるものが過去3カ年の委員会で取り上げられたものとなっております。なるべくですが、ここに重複のないようにお願いしたいということで、一番左側の政策分野、政策目標に目を向けていただきますと九つありますが、直近3カ年で一度も触れられていないものとして3番の地域マネジメントの創造戦略、4番の札幌型産業創造戦略、8番の次世代型エネルギーの創造戦略がございまして、その辺のバランスも意識して選定に当たっていただけると幸いというふうに考えておりました。

それから、資料4-2には、各施策ごとの取組の概要や、この5カ年、あるいは、上位計画である戦略ビジョンで目標にしている各取組の目標値などをまとめております。これはお手元に配付させていただいているアクションプラン2015の冊子から抜き出した形になっておりますので、これも選定の際の参考にしていただければと思うところです。

ここでの説明の最後になりますが、少しおめくりいただいて、後ろのほうに

A4判1枚ものの資料5がついているかと思います。

これは例年行わせていただいている包括外部監査のテーマになっております。なぜこれをつけているかという、やはりこの監査との重複もできれば避けていただくと非常にありがたいなという観点でございます。平成30年度につきましては、ここにあるとおり高齢者保健福祉事業と介護保険事業に関する財務事業の執行についてとなっております。こちらは昨年度の行政評価委員会でテーマとして扱っていただいておりますので、恐らく今年度は重複しないかなと考えておりますけれども、参考につけさせていただきます。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

○石井委員長 考え方については、今、ご説明いただいたとおりで、基本的には4-1の色がついていないところから施策レベルで候補を幾つか選んで、次回、事務事業レベルに落とした形で決めるという流れになると思います。

本来、基本的には順繰りやっていって、何年かで全部当たりますというイメージが妥当な話なので、ちょうど今のタイミングでこれがいいというものがあればそれを選ぶこととしていいかと思います。

それでは、委員歴最長の吉田委員からお願いします。

○吉田委員 やはり地域マネジメントはやってもいいのかなと思います。

○石井委員長 地域マネジメントそのものですか、それとも3-②地域マネジメントの推進ですか。

○吉田委員 雪と共存した暮らしの推進よりは、地域の課題を地域の力で解決する、雪よりはまちの担い手かなと思うのです。さらに、さぼーとほっと基金は企業との連携と考えると、地域コミュニティ、町内会、NPOかなと思いました。

そして、もう一つ興味があるのは、9番の持続可能な都市です。さっき人口減少の話もありましたけれども、まさに持続可能な都市づくりをしていかないとならないので、9-⑦、9-⑧、9-⑨あたりは非常に重要かなと思いました。

でも、さっき委員長がおっしゃったように、やっていないものからやっていくということなのかなとも思うのですが、緊急に何かこれではなければならないものは見つけられないでおります。

○石井委員長 地域コミュニティは、今の実態でいうと、全部を町内会が実質的にサポートできなくなっているはずだから、問題点はあるのでしょうか。ただ、市の施策としてどうカバーできるかという話にどこまでなるかというところでは、事務事業レベルで見ると町内会関係は予算ベースでいうとそれほど大きな事業をやっていない可能性があるのです。そこは事務事業の中身も少し考慮したほうがいいですね。難しいテーマですし、事務事業レベルでいっても関

与が難しいから、余りやっていないということがあり得るのかもしれないです。9番は、一理あるかもしれません。

上岡委員はいかがですか。

○上岡委員 私も、先ほど事務局からご指摘がありましたけれども、色がついていないところという観点になっていて、3番、4番、8番です。

9番は、施策レベルでは9-⑩を昨年度取り上げていますけれども、ここはいろいろな要素が入っている政策分野だなと思いますので、吉田委員と重なるところがあるのですが、9-⑦の交通ネットワークは個人的に興味があります。ただ、この興味のもと、平成28年度に7-②の環境に優しい交通体系のところから自転車のことなどを取り上げたときに、今後、札幌市として交通のことをどうやって考えていくのかという議論の中で考えましたので、それを違った観点から見るともよいかかなと思ったところです。

あとは、それぞれどのような施策内容になっているのかを確認してからかなというところと、今年は先ほどの公共施設マネジメントや出資団体のこともあるので、数も少し考慮しながらになると思います。

○石井委員長 交通の話は、多分、高齢化との関係でいうと、いろいろな意味で曲がり角に来ています。そういう変化に適応した形になっているかというような視点で考えると、十分、今日的なテーマになるかなと思います。ハード的に考えると結構重たい施策が出てくる部分もあるのでしょうかけれども、案外よいかもありませんね。

篠河委員、いかがでしょうか。

○篠河委員 私も、なるべく過去3年間で取り上げられていない政策分野からと考えて、一応、検討してきました。

それで、3-②の地域マネジメントの推進で、金額的に一番大きかった項目で未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業というものがありますが、これの説明を聞いてみたいという気持ちがあります。

それから、3番、4番、8番の中で言うと、8-①の次世代エネルギーシステムの普及促進が金額も比較的大きいし、次世代エネルギーシステム導入の補助事業の金額が大きいですので、この辺を候補に入れてもいいのかなと思いました。

また、3番、4番、8番にこだわらないのであれば、私も、9-⑦の持続可能な都市の交通ネットワークに興味がありました。

○石井委員長 9-⑦は人気ですね。

エネルギー問題は都市の問題ですから、次世代エネルギーも非常に大きな課題でありますね。やっていることを中心に、抜けているような施策の議論も本当は必要なのかもしれません。

蟹江副委員長はいかがですか。

○蟹江副委員長 私は、レベル感は大分違いますし、抽象的な今年か話をしていないのですが、別のところで地域経営を検討しているので、3番の地域マネジメント、地域経営に興味があります。特に、先ほど吉田委員もおっしゃっていましたが、3-①、3-②です。

それから、エネルギーという言葉が4番と8番、9番に出てきているエネルギー関係です。特に次世代エネルギーをどうするかは環境問題との関係もありますし、具体的な事業を詳しく見てみないとうまく議論できるかどうかはわかりませんが、絞り込む候補としてはそんなところを考えてきました。

○石井委員長 僕が違うことを言うと範囲が絞れなくなってしまうのですが、実は産業系をやったらどうかなと思っていました。はやりで言うと、食の魅力を生かした産業の高度化を考えたのですが、札幌だと具体的な展開があるかどうかは微妙かなとも思っていたので、希望が重なったところを選んでいような気がしてきました。

結構難しいかもしれませんが、一番票が入ったのは交通ネットワークですね。

○行政改革担当課長 交通ネットワークは、アクションプラン2015の89ページにあります。

○石井委員長 結構本丸に近い難しい、かつ、重要な施策がいっぱい入っていますが、案外おもしろいテーマかもしれません。

地域マネジメント絡みの話では、3-①と3-②で少し意見が分かれたのですけれども、どうでしょうか。

○行政改革担当課長 アクションプラン2015で行くと37ページや40ページです。

○吉田委員 やるとしたら3-②かなと思います。

○石井委員長 こっちのほうが多いとありますね。

○行政改革担当課長 3-②は町内会などのネットワーク構築や活動支援の話です。3-①は人材育成や拠点づくりの話です。

○吉田委員 3-①と3-②は一体のような気もしますので、どっちかがなかったら、どっちかが成り立たないみたいな、ばらばらで語るとおかしなことになりそうな気がします。

○上岡委員 ふるいわけがよくわかりませんね。

○行政改革担当課長 指標も、どちらも町内会加入率を出しています。

○吉田委員 事業が1個ずつだと効果がわからないかもしれませんね。

○石井委員長 おっしゃるとおり、かえって中途半端になるかもしれないので、やるのだったら一緒のほうがいいかもしれませんね。

○吉田委員 そうだと思います。

○上岡委員 これを見ると、3-①で拠点をつくって、3-②がそれをネット

ワークしていくみたいな形ですね。

○吉田委員 そうですね。

○石井委員長 たまたま拠点事業が入っているけれども、施策自体は担い手という人の話だと書いてありますね。

○吉田委員 前にもこんな議論をした記憶がありませんか。そもそも町内会だけが担い手でいいのかという議論をした記憶がよみがえりますね。

○上岡委員 公園の管理についての話ですね。

○石井委員長 町内会の実質的な加入率は落ちているし、どちらかというと、年長者が支えてきたのですけれども、団塊の世代は町内会活動をしない人が多いと割とどこでも言われているのです。本来だったら団塊の世代が責任者を担うような年代になっているけれども、やってくれている人が少ないとほかの都市では言われています。札幌市はちゃんと見たことがないからわからないのですけれども、どちらかというと、町内会というものが曲がり角に来ているのは、団塊の世代をにらんでの話として言われているのです。とって、では、どうするのというのは謎なのです。

でも、札幌市も、町内会というものに割と重きを置いて運営されていますよね。だから、機能が成り立っていることを前提にやっているところがあるので、もしそうではないのだったら、非常に漠然とした話ですけれども、そうではないやり方を考えるという類いの話が必要かもしれません。実質、ほかに担い手がないですよ。

いずれにしても、やるとしたら二つを一緒にして、重たかったら事務事業を幾つか減らせばいいと思います。要は、単純な施設整備は検証する必要性は重くないと思うので、事務事業数は少し削れると思います。

取り上げるとしたら、そんな形で考えるということではいかがでしょうか。

○篠河委員 初めてなので、よくわからないのですけれども、今回は施策を選んで、次回はたくさんある事業の中から取り上げる事業をさらに選ぶという形ですか。

○石井委員長 施策とそれに並んでいる事務事業を一体的にやるのが基本ですけれども、もしも二つで1個扱いでやるのだったら、中を間引きすると負担がそんなに重くならないかなということで、工夫してやろうと申し上げていました。

○篠河委員 わかりました。

○石井委員長 ほかに意見が出ていたのはエネルギー関係ですけれども、4番か8番だとどっちでしょうか。

○蟹江副委員長 8番はエネルギーそのものずばりですよ。

さっきの委員長のご提案の産業ということも踏まえると4-③ですね。

○行政改革担当課長 4-③ですと、アクションプラン2015の50ページです。

○蟹江副委員長 これは事業が少ないけれども、中身は重たいですかね。

○石井委員長 これを見ますと、多分、スマートファクトリーなど、先導的な事業支援みたいな今年かできていないですよ。

○蟹江副委員長 エネルギーにこだわりは余りないです。

○石井委員長 多分、エネルギー自体の普及なり何なりという次のステージにつながる話は4-③なのだと思うので、むしろそっちをやっておくというのが一つの手だと思います。

○蟹江副委員長 エネルギーのところも、事業は余り多くないですね。

○行政改革担当課長 8-①は73ページです。

○蟹江副委員長 何となく、今のところと基本的な立ち位置というか、進度は同じような感じもしないでもないですね。立ち上がったばかりかなという気がします。

○石井委員長 逆に言えば、やっていないことが問題なのかもしれないです。前の市長は脱原発と言って、別にそれが軌道修正されたわけでもないみたいだから、札幌市は原発に頼らない社会を目指している可能性が高いのですけれども、目指している割に何をやっているのと言ったら何もやっていないのです。怒られるかもしれないけれども、僕はそういう視点で問題意識を持っているので、まさに持続可能なエネルギーの問題というのは、やっていないことが問題で、どう進めることができるかというところは大事なことです。やはり、北海道は、人口当たりのCO2排出量が断トツに高いですから、地球環境というのは本当は常に意識しなければいけないテーマの一つです。特にエネルギーは排出源の一番大きなところですから、札幌、北海道としては本来的な意味があるという位置づけができるだろうと思います。

○上岡委員 少し先走った話ですが、今上がっている中ですと、市民ワークショップは地域マネジメントになりそうですか。

○石井委員長 どっちがいいですかね。私は、東日本大震災の年か次の年に、札幌市の関係で学生が市長に提案するというのを当時やっていて、省エネ社会をつくることを提案したのです。札幌は、最も省エネにおくれている地域の一つです。冬の室温は何度でしょうということで啓発したら、もっとエネルギー依存が少ない地域ができるのに全然やっていないよねという提案です。今は何となく電力事情が回っているから気持ちが薄れてしまいましたけれども、現実では状況は同じですから、逆に、8-③の市民・企業による環境負荷低減の取組の推進というところに省エネが入っていますが、そういう視点は案外おもしろいかもしれないです。

○吉田委員 学生の話が出ましたけれども、そういう視点でエネルギーを語り合うとか、それこそ、企業人も市民ですから、そういうことが言えると思います。

○石井委員長 ワークショップだったら、こういうテーマのほうがいいかもしれません。町内会というのは生々し過ぎて議論にならないと思うのです。

○吉田委員 すごくリアルな苦情が出てくるかもしれませんね。

○石井委員長 むしろやっている方が参加する確率が高いから、みんな愚痴を言って終わりになる可能性があります。

○上岡委員 余り建設的な話にならないかもしれないですね。

○石井委員長 ですから、違う視点で巻き込むほうがいいかなと思います。

○吉田委員 生活にもかかわりますし、市民もきっとエネルギーには興味がありますよね。

○上岡委員 考えなくてはと思っているところでもありますね。

○石井委員長 僕は、今日的なテーマだったら省エネは課題だとずっと思っています。だから、やるのだったら、次世代エネルギーよりも8-③のほうがおもしろいかもしれませんね。わざわざワークショップをやるのだったら、こういうテーマは行けるというか、ちゃんと議論を試みる価値はあるかなと思います。

施策レベルで、次世代エネルギーと、今、僕が勝手に言った環境負荷低減の取組のところを事務事業レベルで見て、どうするかということと、市民ワークショップの話をセットに考えるという感じでしょうか。今日は決められないので、頭出しだけさせていただきたいと思います。

とりあえず、これまでにしているのは、地域マネジメント絡みで3-①と3-②をセットで一つと考えることと、8-①と8-③はセットではなくてどっちがいいかということと考えることと、9-⑦を一つの項目で考える、今のところ大ざっぱに言うとなんか話かなということですが、ほかにお勧めがございましたら、もう一個ぐらいあってもいいかなと思います。

○吉田委員 これでいいと思います。

○石井委員長 それでは、これについて、それぞれ少し細かく見て、どれをやるかを次回絞り込むということによろしいでしょうか。

○行政改革担当課長 こちらで資料をつくる都合上、施策は固めていただいたほうがありがたいです。

○石井委員長 基本は、3-①と3-②で1個、8-①、8-③、9-⑦ですが、この中からどちらか絞るという感じですか。

○推進担当係長 そうですね。事業数で調整という部分もあるかと思いますが、近年、4施策というのは余りありません。



○石井委員長 それでは、8番をどちらにするか選びますか。

○蟹江副委員長 8-③のほうがいいと思います。

○石井委員長 それでは、8-③にしましょう。

それで、実質三つですね。この中から二つを選びましょう。

○推進担当係長 今後、細かい事業を確認いただいて、さらにもう一個落とすみたいなニュアンスですか。

○石井委員長 はい。

○推進担当係長 承知しました。

○石井委員長 決めようと思ったら1回で決められるのかもしれませんが、今まで2回かけて決めていたのです。従来ですと、第2回委員会であれこれ議論して、どちらがいいかというのをやらせていただいていた。でも、イントロで議論すると事務事業の中身が大分わかってくるので、予備勉強にはなっているかなと思います。

では、繰り返しになりますけれども、3-①、3-②は事務事業を絞った形で1個のテーマとして考える、8-③、9-⑦を一つのテーマとして考えるということで、この三つをもう少し細かく中身を見て二つぐらいに絞り込むということをして今日の整理とさせていただきたいと思います。

それでは、こんなところで、次回にさせていただきます。

次に、議事の(3)に入ります。

これは、平成29年度の行政評価について(報告)ということで、報告をしていただくこととなります。

それでは、お願いします。

○推進担当係長 まず、A4判横の資料6をおめくりいただきたいと思います。

今、お話がありましたとおり、昨年度の行政評価委員会でご指摘をいただいた内容です。これは、今年度、各所管局が取り組んでいくことになるのですが、その方向性をまとめたものになっております。

大きくナンバー1からナンバー6は保健福祉局系の案件になっております。地域に密着した保健福祉サービスを提供する環境づくりといった観点の施策になっています。

指摘事項といたしましては、例えば、ナンバー2ですと介護人材不足ということを受けまして、札幌市として人材不足を解消するための取組を一層進めることや、ナンバー4、ナンバー5では、在宅医療における市民負担をできるだけ軽減していくことについて検討するというご指摘をいただいております。各所管局では今年度中に具体的な取組を実施していくという方向がここにまとめられております。

資料6の裏側のナンバー7、ナンバー8、ナンバー9には、インフラ系の取

組としまして、建設局、下水道河川局、都市局の施策に指摘をいただいております。これは、先ほど来、議論にも出ておりますが、今後は人口減少していくことがほぼ確実的になっている中、道路や下水道、市営住宅という市有資産を今後どういうふうにしていくのかというあり方についてご指摘をいただいております、これも平成30年度中に所管局が検討して、また、来年度、報告させていただければと考えているところです。

概要につきましては、資料6のとおりとなりますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○推進担当係長 次に、資料7にまいります。

これは平成29年度に検討課題の提起といたしまして、私どもで内部評価を行った結果になります。

表の上側は行政運営の取組として、私ども改革推進室から庁内に向けて発信させていただいた課題です。

それから、表の下側が財政運営の取組として、財政局財政部から上げさせていただいた課題になっております。

行政運営の取組では、出力環境の集中管理、区役所駐車場の混雑対策といったものを指摘して今後の方向性をまとめさせていただいております。

それから、財政運営の取組としては、札幌ドーム利用料金減免補填補助金について、札幌ドームアマチュア大会利用料金減免補填補助金についてということ、廃止や低減の検討をするような指摘をさせていただいております。

簡単ですが、以上が資料7の説明になります。

最後に、資料8は、昨年度の市民参加ワークショップにおける改善提案と本市の考え方ということで、昨年度は「地域で支える介護～私たちにできること～」と題しまして、市民の皆様にご集まっていただいて議論をさせていただいたところです。

ここでの詳細説明は割愛させていただきたいと思いますが、参加者48名ほど集まっていただきまして、各区ごとに分かれていただいて活発な議論をいただいたところです。

これは、既に市のホームページにも掲載しておりまして、参加者の方にも情報を配付させていただいているところでした。

非常に簡単ですが、事務局からの報告は以上とさせていただきます。

○石井委員長 今のご説明にご質問等があればお願いします。

それなりにご対応いただいていると思えました。

内部評価の札幌ドームの利用料の減免は、これからもっと必要になるかもしれません。まだ決まったことではありませんが、方向的には逆になっていますよね。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○石井委員長 それでは、今日の議事としてその他が残っていますけれども、委員の皆様から何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○石井委員長 事務局は特にございませんか

○推進担当係長 特にございません。

## 6. 閉 会

○石井委員長 それでは、少し早いですが、第1回委員会はこれで終わります。

次回は対象を二つに絞り込むので、中身を見ていただいて、ご意見をある程度固めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、これで終わらせていただきます。

ご協力をどうもありがとうございました。

以 上